

第 317 回 化学コロキウムのご案内

化学科の三先生をお招きして、学術講演会を開催いたします。奮ってご参加ください。

日時： 2022 年 9 月 30 日（金曜日）

場所： 1 号館 120 号室

*工事や行事等で 8 号館付近の教室が使用できません。会場がちょっと離れてしまいますが、よろしくお願いいたします。

14:15-15:00 下山大輔先生（有機化学研究室・助教）

「機能化された新規大環状分子の合成」

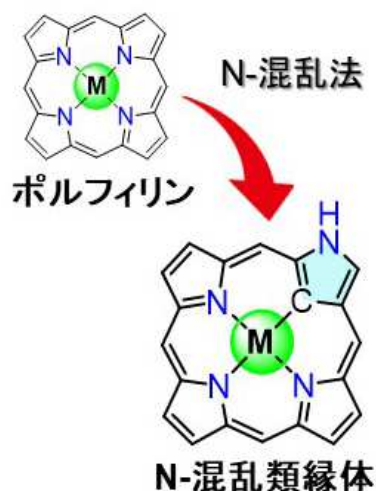
概要：有機合成化学を基盤とした新規大環状分子の開発は生体模倣や機能性材料への応用が期待されるため、非常に重要な研究課題である。本講演では、複数のレゾルシンアレーン(大環状構造)をもつ新規大環状分子の合成、構造、分子認識及び超分子重合を紹介する。またホウ素がドーピングされた新規大環状分子の合成及び刺激応答性についても紹介する。

15:00-15:45 石田真敏先生（錯体化学研究室・准教授）

「異種ポルフィリノイドを基盤とした巨大 π 共役色素の創製」

概要：ポルフィリンは、クロロフィルなどの天然色素の基本骨格として知られ、特異な環状 π 共役構造から誘起される光・電子物性を利用して、触媒、医療、デバイス素子などの広範な材料科学分野への展開が期待されている。我々は、ポルフィリン化合

物の潜在的な機能発現させる手法として、環を構成するピロール環の連結様式を切り替える「N-混乱修飾法」による異種ポルフィリノイド（類縁体）を創製し、近赤外光機能等の希有な性質を示すことを見出してきた。本講演では、この“異種ポルフィリン化学”の最近の展開について紹介する。



16:00-16:50 廣瀬靖先生（物性物理化学研究室・教授）

「“視えない”光を利用可能な透明電極材料の開発」

概要：高い電気伝導性と可視光透過性を兼ね備えた透明導電性酸化物は、発光ダイオードやタッチパネル、薄膜太陽電池などの光デバイスの透明電極材料として広く利用されてきた。本講演では、従来の透明導電性酸化物では透過性が低い、近赤外光や深紫外光といった「視えない」光を高効率に利用可能な次世代材料の開発に関する最近の研究を紹介する。

連絡先：杉浦健一（内線 3423）